2020年12月

12月中旬から最高気温が一桁になる日もあり、一気に寒くなりましたね。体調管理には気を付けたいものです。そして年内もあと少し…12月は師走とも言いますが、字のごとく、特に時が経つのが早く感じられます。残りの2020年を有意義に過ごしましょうね。

さて、今回ご紹介する本は、**『イタリアの猫』　岩合光昭著　新潮文庫　2016年** です。今月のはと時計のテーマは「世界遺産」なのですが、この本にもイタリアの世界遺産の写真が出てきますよ。たとえば、フィレンチェ・アルベロベッロ・ヴェネツィア・ローマの街並みや、シチリア島のアグリジェントの遺跡です。素敵な風景とネコの写真は、ほほえましくて癒されます。岩合さんと言えば、代表作「岩合光昭の世界ネコ歩き」のように動物の中でもネコの写真家というイメージです。そんな岩合さんが写真家としての道を歩まれるきっかけになったのは、19歳の時に訪れたガラパゴス諸島です。自然の驚異に圧倒されたそうです。いろんな国のネコの自然な表情を撮影することができるのは、さすがだなぁといつも感心しています。仰向けにお腹が見えた状態で寝ているネコ・伸びしているネコ・お座りしてあくびしているネコ……などリラックスした表情の写真が見られます。常にネコと過ごしている岩合さんはネコの性格も瞬時に察するのでしょうか。「ヒトがいいという言葉があるように、ネコもヒトに準じてイタリアらしさを醸し出しているような気がする。」とおっしゃています。岩合さんがお気に入りのオスネコ、ドメニコは、この本の表紙にもなっていて威風堂々たる姿で写っています。ちなみに、私もタイプです（笑）。このネコは道を横断する時、真剣な表情でちゃんと左右を確認するそうです。このネコに会うために再訪したこともあるそうですよ。

ヴェネチア（ヴェネト州）のページでは、縞模様のネコを多く見たとの記述があります。なぜ、縞模様のネコが多いのか説明されていたのですが、その内容が興味深いものでした。ペストの被害を受けた中世時代、ペストを媒介するネズミを退治するネコのマエストロ（名人）がシリアからヴェネツィアへやってきました。そのときのネコがトラネコだったんだそうです。伝染病がきっかけで、ネコの生息地が広がるとは意外でした。

もう一つ岩合さんの印象深い言葉があります。“昔から島にはネコが多いといわれています。が、近頃はそうともいいきれないような気がします。その原因として考えられるのは、まず島々の人口や漁獲量が世界的に減少しているということがあります。それにほんとうの意味でヒトの暮らしに余裕がなければ、ネコに優しい世の中にはならないと思います。”たしかに、ヒトに経済と心の余裕がなければ、ネコだけでなく動物を飼うのは厳しいでしょう。また、島民が減少しているのは日本にも言えることで、昔よりもネコなど動物が住みづらくなっていていることが読み取れます。

岩合さんのネコ愛を感じられる本です。ネコ好きにはたまらない一冊です。そして、愛くるしい表情の写真がいっぱい掲載されているので、ネコ好きの人だけではなく犬派という人もきっと楽しめる本だと思います。